

令和6年度 第2回 三木市健康づくり推進協議会 議事録

- 1 日 時：令和6年11月27日（水） 午後1時30分から午後3時
- 2 場 所：三木市総合保健福祉センター 2階 研修室
- 3 参加者：委員11名（会長含む）
- 4 傍聴者：なし
- 5 内 容：以下のとおり

1 開 会

司会進行：三木市健康福祉部健康増進課 課長補佐

2 会長あいさつ

三木市健康づくり推進協議会 会長

3 議事事項

（1）健康プランみき21（第3次）計画案について

説明：三木市健康福祉部健康増進課 健康政策係 係長
母子保健係 係長

質疑・意見

【委員】

全国的に、8020のキャッチフレーズは浸透してきている。歯周病は、糖尿病や心疾患と深く関わりがあり、口と身体は連動していることを理解してほしい。また、高校生までの医療費無償化により歯科の受診者が増え、高校生の虫歯が増加していることが分かった。虫歯は、中学生から増える傾向にあり、予防するポイントは、健診とフッ化物塗布である。今後、5～10年後に、中高生の虫歯が減少すればよいと考える。

【委員】

三木市は県より優れているところもある。町ぐるみ健診、特定保健指導の取り組みはよい。今後も継続してがんばってほしい。

【委員】

毎年町ぐるみ健診を受けているため、いろいろな疾患が早期に見つかり、治療につながった。

【委員】

介護予防教室で地域に出向いた際、参加された方がいろいろなことに興味を持ち、地域の中で健康づくりについて考えておられることがよく分かった。向上心をもつことは、大切なことではと感じた。

アンケートの、育てにくさを感じた時に対処ができる親の割合が気になった。

【事務局】

対応方法も含め、健診などのあらゆる場面でサポートしていく必要があると考えています。

【委員】

HPV ワクチン予防接種について、今年度でキャッチアップ事業が終了するが、それ以下の年齢について、どのように啓発していくのか、今後の具体的な取り組みを知りたい。

【事務局】

HPV ワクチン接種については広報やホームページ等で情報発信しています。

また、子宮頸がんは、予防接種だけでなく、検診が重要です。市の健診において、20歳から子宮頸がん検診が受診可能であり、HPV 検査も併用しています。

【委員】

市内に産婦人科がないように思うが、HPV ワクチン接種はどこで接種出来るのか。

【事務局】

市内に産婦人科が3か所あります。また、11か所の内科、小児科でも接種が可能になっております。

【委員】

健康経営に関して、働く女性の健康管理、更年期の対応についての考えは。

【事務局】

企業とも連携し、今後この取り組みに力を入れたいと考え、本計画に盛り込んでおります。ぜひご協力をお願いしたいと思います。

【委員】

プレコンセプションケア、子育て等について、今後大学とも連携できるのではないかと考える。

【委員】

健康アプリ、母子手帳アプリの今後について、知りたい。

【事務局】

みっきい健康アプリ「アスリブ」については、健康を切り口に２年前に開始し、登録者数は7,000人を超えています。ダウンロード後、いかに継続して活用してもらえるようにするかが課題となっています。

みっきい子育てアプリ「母子モ」については、国も母子手帳交付のデジタル化を進めていくことになっています。課題としては、アプリの普及啓発が難しい、また利用の定着が進まないことが挙げられます。

【委員】

計画の中で、学校の保健の授業で・・・とある。学校では知識レベルはしっかりと教えているが、それが習慣化するかが課題。食育は、学校毎に計画をたて、しっかりとやっている。薬物乱用についても、中学校でしっかりと伝えている。

学校で得た知識を習慣化するためには、学校と家庭の役割を明確にし、連携していくことが必要だと考える。

【委員】

会議に参加するようになり、セルフケアが大切であると強く感じるようになった。市民に、いかにこのプランに参加してもらうか、啓蒙が大切になる。それぞれの立場で役割をもって地域で活動する。県レベルで三木市を比較するのではなく、国レベルで比較、例えば三木市は日本で何位のような伝え方をしているかどうか。

【委員】

計画を進めるにあたり、健康格差が課題になると思う。本プランとつながりのある他の計画と併せて、取り残される人のフォロー体制を考えていく必要がある。意識しなくても健康になれる環境づくりのために、他団体との連携を強化する必要があると思う。

6 閉会

あいさつ：三木市健康づくり推進協議会 副会長